

## 私たちはどのように市民育成者になっていくのか？

～「市民としての教師」を育てることに注目して～



開催日時：2020年9月20日（日）14:00～16:00 運営媒体：zoom

参加者数：17名（大学生・社会人13名、運営メンバー4名）

話題提供者：後藤賢次郎さん（山梨大学大学院准教授）

ファシリテーター進行等：小田切瑞生さん（山梨大学大学院教育学研究科）

今回のスタディ・スタヂオでは、市民を育てる「市民育成者」に注目しました。市民育成者がどのような過程を経て市民育成者となってきたのか、またどのような学びを踏まえて市民育成を重視するようになったのかについて考えることで、市民育成におけるキーワードやヒントを得ることができました。

前半は、山梨大学大学院准教授の後藤賢次郎さんより、我々がどのように市民育成者になっていくのかについてお話ししていただきました。学校の教師が育つ過程における大学の教職課程での学び（フォーマルな学び）とその他の場所での学び（インフォーマルな学び）に注目し、教師が市民となる、そして市民育成者となる上での両者の学びの在り方について検討していきました。自分が育てたい市民の持つ資質をイメージマップにまとめ、自分がそのような資質を重視するようになった出来事を時系列順に挙げていくことで、個々人の市民育成観とそのような市民育成観を持つに至った経緯を分析した例を、いくつかご紹介していただきました。

後半はグループに分かれ、ワークやディスカッションを行いました。ワークでは、後藤さんの話題提供を踏まえ、自分が育てたい市民の持つ資質を参加者の方にもイメージマップにまとめていただき、そのような市民育成観を持つに至った個人の経験等を共有しました。その後、市民としての教師を育てるためのフォーマル・インフォーマルな学びのあり方や改善点に



ディスカッションの様子（一部）

ついてディスカッションを行いました。「社会問題を自分ごとにする経験がフォーマル・インフォーマルに整備されていくべきである。」「民主主義の原理を理解する場が必要である。」「様々な立場の人に出会う機会が確保されるべきだ。」など、様々な意見を共有していただきました。また、インフォーマルな学びを拡大していくことが必要だとした上で、オンラインを積極的に活用し外部人材と連携していくと良いという意見もありました。教員免許取得中の大学生の方から「社会に参画する方法を教えるはずの教師志望者が、社会に参画した経験がない場合がある」というお話があり、市民育成者になる前に自身が市民として成長しなければならないという難しさを感じられました。

今回の企画では、自身が市民育成を重視するに至った過程を振り返ることで、今までとは異なる視点から自身の市民育成観を振り返り、それらを参加者同士で共有することができました。（主な企画運営：小田切・古野・別木・伊藤 報告担当：伊藤）